



「リサーチセミナー」を開催しました

10月19日(土)に、理数科1年生を対象に、第5回「リサーチセミナー」を実施しました。佐賀大学 農学部 生物資源科学科 関清彦 先生に、「かびを防ぐ(抗かび物質の探索)」と題して、食中毒や発酵食品、抗生物質等の身近な例を交えながら、抗真菌剤の探索をテーマとした研究の事例紹介等、研究課題の見出し方や解決方法について話していただきました。



生徒の感想

- 「カビと人間は細胞性基盤が同じであるため、カビに有害な方法は人にも有害であるため、人とカビの違いを見つけるというのが印象的だった。」
- 「いろんなことを知っておかないと、発想が生まれにくい。自分にあまり関係がないと思うことでも、知識として頭に入れておくということが、研究をするにあたって大事だということに言われた。」
- 「研究をしていく中で、世の中のバックグラウンドを理解することが大切だとわかりました。自分一人では思いつかないようなことも、みんなで知識を出し合うことでアイデアが出てくることもあると思います。これから自分が研究するときにみんなで協力していきたいと思いました。」
- 「学部では、専門分野の学習だけでなく、他の教科もとても大切で、例えば農学部でも物理の知識も大切だということがわかりました。」

「九州大学アカデミックフェスティバル2019」に参加しました

10月19日(土)に、九州大学伊都キャンパスで「九州大学アカデミックフェスティバル2019」が開催されました。本校からは、「サクラの葉による発芽成長抑制」の研究を行っている科学部と科目「SSH研究Ⅱ」で「ユーグレナが世界を救う!～廃材を用いたユーグレナ効率培養法～」の研究に取り組んでいる班が参加しました。課題研究発表を通して、九州・山口地区の生徒と相互に交流を深めました。

「科学へのとびら」に参加しました

10月20日(日)に、佐賀大学で「科学へのとびら」が開催され、参加登録した理数科1年生が参加しました。農学部 出村 幹英 先生に、「新しい”国際資源” 微細藻類を育てる!」と題して、原油炭化水素を産生する微細藻類ボトリオコッカスの研究についてご講演いただきました。その後、ダイバーシティ推進室 荒木 薫 先生から「ダイバーシティ入門講座」をご講演いただきました。「科学へのとびら」を通して、いろいろな視点でものを考える経験を積んでほしいと思います。

「共創セミナー」を開催しました

10月31日(木)に、理数科1年生を対象に、第3回「共創セミナー」を実施しました。株式会社 戸上電機製作所 技術本部 開発管理グループ マネージャー 山口直哉 先生に、「高圧開閉器について・構造と設計」と題して、高圧開閉器の研究開発についての事例紹介、企業活動における課題発見や課題解決の在り方等を話していただきました。



生徒の感想

- 「まず、停電の区間を狭めることを課題として捉えられていました。この課題が解決すると、さらに小型化や軽量化など製品をより優れたものにする工夫を考えられていました。製品の技術開発は、課題解決しても次の課題を探し、よりよい生活環境をつくっていくことの繰り返しだとわかりました。」
- 「僕は電子機器の開発にとっても興味があったので、たくさんのお話を学ぶことができてよかった。私たちが日頃あるのが当たり前だと思っている電線や高圧開閉器などは、戸上電機の方々の様々な試行錯誤によりつくられているということを知ることができた。」
- 「開発者は、柔軟なアイデアやニーズなどをもとに、よりよい製品のために苦労に苦労を重ねる、やりがいをたくさん感じられる職業だと思いました。」
- 「講師の先生は、課題を解決するためには、まずその対象を知ることが大事だと言われました。今までも何人もの先生がそれをおっしゃっていたので、理解をしないと研究というものとは始まらないのだと、講演を通して思うようになりました。」